

特別支援学級 自立活動 学習指導案

日 時 平成28年9月9日(金) 1校時
 学 級 特別支援学級(知的2名 自・情9名)
 授業者 教諭 高井 衛 (T1)
 教諭 佐々木 晴美(T2)
 教諭 山本 淳 (T3)
 講師 下河原 哲太(T4)

1 題材名 「未来新聞」(ポスター)

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

本学級の生徒は、知的障がい学級2名、自閉症・情緒障がい学級9名の生徒が在籍している。その多くの生徒は障がい種別に限らず自己を統制し行動することや他とのかかわりにおいて課題が見受けられる生徒たちである。

具体的には、対人関係づくりにおいて個々に苦手さを持ち合わせていたり、どのように行動したらよいか戸惑いが生じ行動が停滞したり、消極的になってしまう場面が見られたりする。また、自閉症・情緒障がい学級の生徒は、パターン化した行動を好む一方で新しい環境になかなかなじめなかったり、緘黙により自ら環境に働きかけることが難しかったりする生徒がおり、その様子はさまざまである。

私たちは、生徒たちが将来自立し「豊かな生活」を実現していくための指導には、「読み・書き・計算」などのような生活に必要な技術的・実的な力や、自ら置かれた環境を理解し、場面に応じて適切な判断をし、効果的に建設的に対処するために必要なスキルを発揮し、自ら環境に働きかけ課題を解決していく力を身につける指導・支援が必要であると考えている。

生徒個々の様子は以下の通りである。

氏名・学年 障がい	特 徴	自立活動 との関連
TS 1年 知 (男子)	明るい性格で、他者とのかかわりを好む。学級の仲間からも好かれる存在である。はじめてのことに苦手さをもっているが、見通しを持つことができる活動には進んで取り組むことができる。本題材は初めての経験であるが、活動の手順を理解するとともに自分で発表したり、友達の発表を聞くことを目指す。	2-(2) 4-(2)
TS 1年 自・情 (男子)	写真や映像などにより、これまでの行事の様子を思い起こすことができる。学級の友達と自らかかわろうと働きかけることには消極的なところがあるが、友達の様子を参考にしながら自分の活動する内容を理解することができる。本題材では、活動内容を理解し自分で発表することともに、友達の発表を聞くことを目指す。	4-(2) 6-(3)
SM 2年 自・情 (男子)	緘黙の生徒である。自ら進んで友達とのかかわりを持つことは少ないが、教師と友達とがかかわる場面を通して一緒に行動することができる。その場が楽しい雰囲気になるよう場を和ませるような行動をとることがある。時には感情が高ぶり場を意識	3-(3)

	した行動ができなくなることがある。状況を理解して落ち着いて行動することを目指す。	
TM 2年 自・情 (男子)	興味・関心を持つことには自ら積極的に意見を述べるができる。「これまでは〇〇だったから、今度は〇〇したい」等、経験を踏まえて物事を考えることができ、さらに自分の希望や工夫してもっとよいものにしていこうと建設的な意見を述べるができる。本題材には興味関心を強く持っていることから、発表の仕方を自ら工夫するとともに、友達の「よさ」を認め表現することを目指す。	2-(3) 3-(3)
YK・2年 自・情 (男子)	仲間とかかわることを楽しむことができる。学級の仲間とのかかわりにおいて、他者には否定的な発言をしてしまうことがある。これまでに経験をしたことや興味を持ったことには積極的に行動することができるが、不登校傾向であったため、学習空白、経験不足の面がある。活動を通して自己を見つめるとともに自己の「よさ」を進んで発揮しようとすることを目指す。	3-(3)
OS・3年 自・情 (男子)	他者とかかわりは良好である。学級ではリーダー的な存在として仲間からも慕われている。自分の思ったこと感じたことを文章にして表現するのが苦手である。自分の思いや考え調べた内容を他者にわかりやすい言葉で伝えることを目指す。	3-(2) 3-(3)
SS・3年 知 (男子)	他者とかかわりは良好である。他者の意見や考えに左右される傾向が見られていたが少しずつ自信が持てるようになってきている。友達との会話では大げさな表現をして気を引こうとするところがあるため、本題材では、活動内容を理解し進んで活動するとともに、調べたことを正しく判断し正確に伝えることを目指す。	2-(2) 2-(3)
NH・3年 自・情 (男子)	緘黙であるが、集団の場面において以前見られたような緊張感はなくなり、落ち着いて活動することができるようになった。他者とのコミュニケーションは、問いかけに首を縦に振ったり横に振ったりすることで意思の確認をしている。自分自身のことや調べた内容を文章等で表現することを目指す。	6-(4)
YK・3年 自・情 (男子)	緘黙である。現在は教室で仲間と共に活動することが難しい状態である。友達と共に活動する経験を通して、人とかかわり方を学ぶことを目指す。	3-(4) 6-(4)
WS・3年 自・情 (男子)	機械や科学などに興味を持っている。パソコンによるプログラミングを得意としている。些細なことに気持ちが落ち着かなくなり、行動が停滞してしまう事が少くない。本題材では、活動に参加するとともに自分の伝えたい内容をまとめ、友達に分かりやすく発表することを目指す。	3-(3) 3-(4)
TS・3年 自・情 (女子)	通常の学級の仲の良い仲間と共に過ごすことを好み、本学級の仲間とのかかわりについては、気が向いた時に簡単なコミュニケーションを図ることがあるが、ほとんどの場合消極的である。自分の好む活動には積極的に取り組むことができる。本題材においては、活動に参加し自分の調べたことを整理しまとめ、発表するとともに、友達の活動に関心を持つことを目指す。	3-(4) 6-(5)

(2) 題材観

自立活動の目標は、個々の生徒が自立を目指し、障がいによる学習または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基礎を養うこと

としている。指導内容を選定する観点として、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」を示している。

これまで進路指導に関する指導は、3年生を問わず1・2年生を対象とする見学会や教育相談なども行われている。保護者にとっても関心が強く早くから参加を申し出る方もいる。こうした中で、生徒自身が自分を見つめて理解した上で、自らが進路や将来について自分の考えを持つことは大切である。

(3) 指導観

これまで職業や社会自立についての指導は、総合的な学習の時間において生徒の興味・関心に基づきさまざまな職業についてインターネットや本などで調べ学習に取り組んだり、3年生においては職場訪問や体験を通して実際の活動から学んだりしている。

本題材「未来新聞」において生徒には、自分のよさや自分そのものと向き合い、自分について深く考える活動になるようにしたいと考えている。また、他者から認めてもらえることで自分に自信を持つことができるような活動にしたいことから集団による活動の場を設定した。活動の最終的なねらいを「自分らしさの理解・追究」とするものである。

また、1年生から3年生までの生徒が在籍し、これまでの学習や経験のちがいが、生徒個々の発達段階への配慮が必要であることから、テーマの内容を「近い将来の自分の姿」、「中学校卒業後の自分の姿」「将来自立した自分の姿」などから選択するようにする。

(4) 研究主題とのかかわり

○主体的な学び

生徒が解決すべき、課題やテーマ自体に興味関心を持つことができるようにする。実際の活動において、活動の手順や解決までの見通しを持つことで、生徒たちによる主体的な活動が可能になってくると考える。本時のテーマは、生徒が今後取り組みたい活動としてあげたアンケートの結果をもとにテーマを設定している。また、活動の見通しについては、活動の手順を示したり、必要であれば選択をさせたり、取り組みやすさに配慮する。

○協働的な学び

新聞（ポスター）の書き方の工夫や発表の仕方の工夫など、他者と見比べたり、お互いに教え合ったりする場面を設定する。その中で自分のよさの発見や他者のよさに気付いたりしたことを素直に言葉で表現できるよう場の設定の工夫をしたい。また、協働的な学びの場を効果的にするためにも、発表の聞き方の視点についてもそれぞれに応じて示していきたい。

○振り返り

本時の活動を振り返り、自分でできたこと、仲間から教えてもらったこと、教えてあげたこと、活動を通して理解できたことなど、何を学んだか、どのように学んだかを大切にしていきたい。

3 題材の目標

- (1) 現在の「自分らしさ（自分のよさ）」に気づき、今後も自分の「よさ」を発揮しようとする気持ちを持つことができる。
- (2) 中学校を卒業した自分の姿について見つめることができる。

(3) 今年経験したことを振り返りながら、来年の自分の姿を想像することができる。

(4) 将来の自立した自分の姿を目標とし、自分の姿を見つめることができる。

4 指導計画と評価の計画（12時間）

時間	学 習 活 動		評価の観点
1	共通	オリエンテーション	今後の活動及び目標を理解することができる
1	共通	自分らしさとは何かを考える	アンケートの内容に答えるとともに、自分について見つめることができる。
1	G3	さまざまな職業を調べる	自分の興味を持った仕事について必要な資料を集めることができる。
	G2	学校（高校）を調べる	高校についての調べ学習の計画を立てることができる。
	G1	1学期の活動を振り返る	感想文や写真などで1学期の活動を思い出すことができる。
2	G3	自分にむいている職業を調べる	自分らしさや家族の思いを考えて自分にむいている職業を選択し調べるができる。
	G2	自分の進学したい学校を調べる	進学したい学校について調べたことをシートに記入することができる。
	G1	新聞の書き方を考える	伝えたい内容を決める。
2	共通	未来新聞（ポスター）をつくる	自分の希望がかなったと仮定した新聞（ポスター）を書く活動を通して「自分らしさ」を理解、確認することができる。
2	共通	発表シートをつくる	発表の仕方を考え、シートにまとめることができた。他者の新聞について質問を考えることができる。
1 (本時)	共通	未来新聞の発表会をしよう	シートに従って発表することができる。 発表を聞き、友達のよさを見つけることができる。
1	共通	まとめ	活動を振り返るとともに、今後の活動に見通しを持つことができる。

5 本時について

(1) 主題 「未来新聞」の発表会

(2) 学習目標

- ・自分の「よさ」をもとに調べた内容を発表することができる。
- ・友達の発表を聞き友達のよさに気付くことができる。

(3) 指導の構想

本題材は、生徒それぞれのテーマにそって将来の希望を成し遂げたという想定のもとで新聞（ポス

ター)を書く活動である。新聞の内容は、なぜその職種を選んだのか、どのようにして希望をかなえることができたか、希望をかなえるためにどんなことを頑張ってきたか等といったものである。この活動では、職業選びや進学する学校を選ぶ際、「自分らしさ」を発揮できる場所を選択することから、「自分らしさの理解・追及」が目標となる。

しかし、生徒が選択する際に情報が不足していたり、生徒自身の理想へのこだわりから、現実からかけ離れたものの選択になったりしないよう、「家族の理想」として家族の方々へのアンケートに協力いただきながら、生徒が実現できそうなものを選択できるようにしていきたい。

「課題・見通し」の場面では、黒板に活動の手順を示すことで生徒が見通しを持って活動することができるようにする。

(4) 本時の目標一覧

生徒氏名	学 習 の 目 標
T S	活動の手順を理解して、自分で発表したり友達の発表を聞いたりすることができる。
T S	活動内容を理解して、自分で発表することともに、友達の発表を聞くことができる。
S M	最後まで落ち着いて、学習活動に取り組むことができる。
※T M	友達の「よさ」を認めるとともに、自分に取り入れようとする事ができる。
※Y K	自己を見つめ、自己のよさに気付きながら学習活動に取り組むことができる。
O S	他者の受け取り方を考えながら、わかりやすい言葉で伝えることができる。
S S	調べたことに自信をもって表現しようとする事ができる。
N H	自分自身のことや調べたことを文章等で表現する。
Y K	活動に参加するとともに、友達といっしょに活動することができる。
W S	友達とかかわりながら活動に参加することができる。
T S	活動に興味をもって参加しようとする事ができる。

※ 当日配布資料参照

(5) 展開

学 習 過 程	学 習 活 動	学 習 内 容 ・ 予想される生徒の反応	■指導の工夫・支援●評価 ◇振り返りの場面・活用
課題・見通し 5分	1 前時までの活動を振り返る 2 本時の活動の流れを知り、活動の見通しを持つ	○前時の活動内容を想起 ・ 友達の新聞を読み返すとともに、質問事項を確認する。 ・ 黒板に提示された活動手順で活動の確認をする	◇新聞内容にそれぞれ工夫されたところがあることを確認する。 ◇質問事項を確認する ■活動の見通しを持つことができるように活動の手順を黒板に提示する。
活動テーマ：「未来新聞」を発表しよう			

自力解決・協働探究・深化	3 グループ内で発表する	○発表シートに従って発表をする ・選んだ理由（自分のよさ, 家族の願い）や, 願いを実現するために頑張ったこと等の項目について発表する。 ○発表を聞く ・聞き手は, あらかじめ配布された各自が書いた新聞と自分が準備した質問用紙とを見比べながら発表を聞く	■ 2つのグループをつくり, グループ内での発表会を行う。 ■ 前時に作成した発表シートを見ながら発表する。 ■ 緘黙の生徒の発表については, 生徒が作成した発表シートを使い, 教師がかかわって発表を行う。 ■ 友達の発表を集中して聞くことが難しい生徒には, 教師が付き, 発表者がどんなことを話しているか新聞や発表する内容を簡略化したシートでチェックをしながら聞く。
	4 質問をする	○質問する ・聞き手は, 友達の発表を聞き質問シートにより質問をする。 ・発表者は質問された内容に答える。 ・友達の発表を聞いた感想を述べる。	● 生徒の感想から, よさに触れた内容は教師も触れてみんなでよさを確認する。
40分	5 代表者による全体発表会を行う	○代表者の発表を聞く。	
学習整理 5分	7 発表会を行った感想をまとめる	○振り返り ・友達の考えや思い, あらためて知ることができたこと等, 本時の活動で学んだことなどを書きとめる。	◇今日の活動を振り返り, 自分ができたことや, 友達のできたことをシートに記入する。

(5) 板書計画

